

# GINGA REPORT 401

No. 85  
2022.06

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和4年6月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 6月の星空

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

### うしかい座とかんむり座

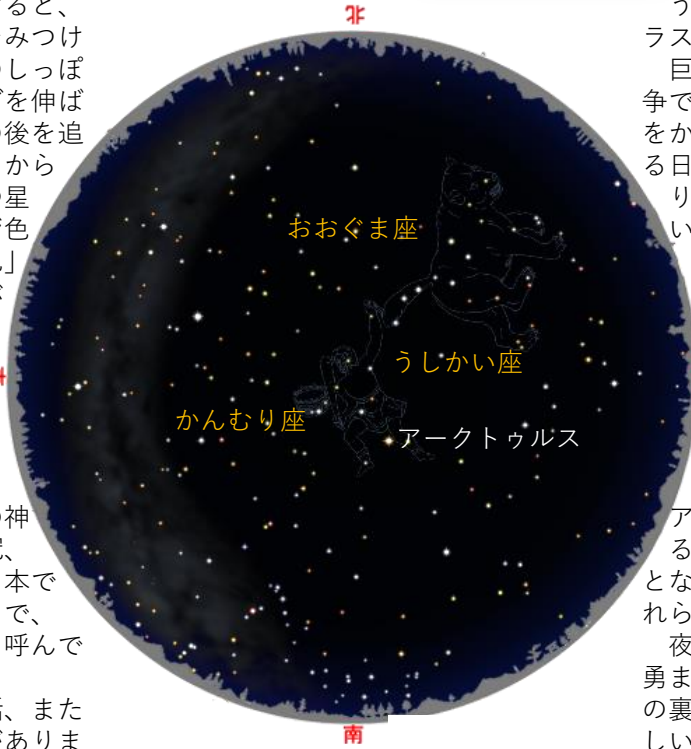
6月15日21時の星図

### 石になったアトラス

6月、日が暮れ頭上を見上げると、うしかい座のアークトゥルスを見つける事ができます。おおぐま座のしっぽの部分、北斗七星の柄のカーブを伸ばした先に輝く星で、おおぐまの後を追いかけていくように見えることから「熊の番人」という意味を持つ星です。また日本では、オレンジ色のアークトゥルスを「こがね色」に輝く麦にたとえ、麦星と呼ぶ地域がありました。

そんなうしかい座の近くにはあまり明るい星はありませんが、少し東の空を眺めると、美しい半円を描く星座があることに気が付きます。これは、クレタ島の王女アリアドネが酒の神ディオニュソスから贈られた冠、かんむり座です。またこれも日本では全く別の形に見えていたようで、「かまど星」「たいこ星」等と呼んでいる地域がありました。

同じ星座でも、ギリシャ神話、また日本とで色々な見方、呼び方がありますが、皆さんにはこれらの星が何に見えるでしょうか？



うしかい座は天をかつぐ大男、アトラスの姿だという説があります。

巨神族の一人アトラスは、神々の戦争で大神ゼウスの一族に敗れ、生涯天をかつぐ罰を負わされていました。ある日そこに勇者ペルセウスが通りかかり、目が合うと石になってしまうという怪物メドゥーサの住処を尋ねます。そこでアトラスは、場所を教える代わりに、「もしメドゥーサの首をとったらそれを帰りに私に見せてくれ。このまま永久に天をかついでいるのは耐えられない。」とペルセウスに頼みました。その約束を守り、ペルセウスはメドゥーサの首を切ってくるとアトラスに見せました。するとたちまちアトラスは石となり、永劫の苦しみから逃れられたと言われています。

夜空で空高く腕を突き上げ、勇ましく見えるうしかい座の裏側には、実はこんな哀しいお話があったのです。



右図：北欧百科事典に描かれたアトラス

## 今月の天文トピック

©渡辺教具制作所

### 星座早見盤で星空観察

夜空で星座を見つける時に一番良いのは、星座を知ってる人に教えてもらう事ですが、そうもいかない時は星座早見盤を使って自分で探す事もできます。星座早見盤の月日と時刻を目盛りにあわせると、今自分が見上げている空の様子が星座早見盤の窓に現れますから、これと本当の星空を見比べていけば良いのです。

まず方位磁石または方角アプリ等で方角を確かめ、星座早見盤の方角と照らし合わせます。そこから星座早見盤を頭の上にかざし、明るい星や特徴のある星の並びをみつけてみましょう。「6月の星空」でご紹介したうしかい座やかんむり座だって簡単に見つける事ができるかもしれません。

また外に出られない日は、シミュレーションソフトを使うのも一つの楽しみ方です。例えば、国立天文台のMitakaでは、その日の星空だけでなく、今見えている天体の詳細も知ることが出来ます。たくさんの星や星座がある中で「今度晴れたら何を見てみようかな。」なんて考えるのも楽しいですね。



## 博物館主催 スターウォッチング

### 博物館主催きらら号観望会

日時：6月25日(土) 20:00~21:30  
場所：博物館前市民公園  
内容：夏の星をさがそう



※当日受付・参加無料です。  
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

## 編集後記

今年の夏至の日は6月21日です。夏至の日を迎えるといつもの帰り道が明るく何か嬉しくなりますね。

ただし、夏至のころは夜が短くなることや、また6月は梅雨の時期と重なることなどから、星を観察できる日や時間は他の季節に比べて短くなってしまいます。少ない晴れ間を逃さずに、たくさんの春の星座をみつけてみたいものですね。

## 6月の月

7日  上弦

14日  満月

21日  下弦

29日  新月